◆◇ 会議録 ◇◆

会　議　名	令和5年度第1回阿南市まち･ひと･しごと創生総合戦略懇談会		
開催年月日	令和5年8月30日㈬	資料の有無	無 ・ (有) →別紙
会　　場	阿南市役所6階　603･604会議室		
出席者	【委員】 青木委員、池添委員、岩佐委員、兼松委員、坂本委員、鈴江委員、 秦野委員、藤井委員、箕島委員、山本委員　計10人 【市】 表原市長、山本副市長、坂本教育長、松﨑政策監、岡田企画部長、 吉積総務部長、石本危機管理部長、吉村市民部長、吉岡保健福祉部長、 吉岡産業部長、藤原建設部長、田中特定事業部長、橘会計管理者、 柏木水道部長、市瀬教育部長、岡部議会事務局長　計16人 【事務局】 東企画政策課長、脇坂課長補佐、富田事務主任		

内　　容

(11:00　開会)

【東企画政策課長】

総合計画審議会で大変お疲れのこととは存じますが、引き続き、令和５年度第１回阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会を始めさせていただきます。

本懇談会は、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づく、阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関し、広く関係者の御意見をお聞きするため、設置されております。

開会にあたりまして、表原市長より御挨拶を申し上げます。

【表原市長】

大変お疲れ様でございます。先ほどの総合計画に関する会議に引き続きまして、皆様方には御協力いただき、阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会の開催にあたりましても御尽力いただいておりますことに、謹んでお礼を申し上げます。

当該計画におきましては、人口減少、超高齢社会の中にあっても、人口減少を抑制しながらも、その中で人口減少に備える、この２つの視点を継承しながら積極的戦略に取り組んでおります。総合計画の中でも示しております人口減少社会をいかに前向きに捉えて生き抜いていくのか、そして、夢や希望を見出して次世代に引き継げるまちづくりを行っていくのかという観点に基づいて、施策を展開しているところでございます。この計画を進めていくにあたりましては、しっかりとしたＰＤＣＡサイクルを回す中で、各部署にまたがることに横串を通して、重層的な課題に対していかに備えをしていくのか、全庁的に取り組んでいくのかという、縦割りの弊害をブレークスルーしていく取組が、人口減少社会、つまりは職員の数を構えることもままならない状況の中で、先ほどのＧＩＳのような新たなデジタルツールもしっかりと活用しながら、少ない人数の中でも課題解決に向けた強くしなやかな体制を構築していくということも重要だと思っております。その中で、こうした年に数回しか開かれることのない会議でいただく御意見は非常に重要な位置を占めております。この引続きの会議も、皆様方から貴重な御意見をいただきたいと思っておりますので、御協力のほど、何とぞよろしくお願いを申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【東企画政策課長】
　総合計画審議会に引続きとなりますので、佐竹委員と中野委員は欠席でございます。本日、過半数の委員に御出席いただいておりますので、阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略懇談会設置要綱第６条第２項の規定により、会議は有効に成立していることを御報告いたします。
　なお、会議録作成のため、議事進行中は録音をさせていただき、会議録は、後日ホームページで公開されますので御了承ください。
　これより、議事進行は箕島座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【箕島座長】
　それでは、会議を進めたいと思います。まず、議題「令和４年度実績・評価」について、事務局より御説明をお願いします。

【脇坂課長補佐】
　それでは、「第２期阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和４年度実績・評価」について御説明させていただきます。
　令和２年に策定いたしました第２期の総合戦略については、令和２年度から令和６年度までの５年間を計画期間とし、人口減少と地域経済縮小の克服や人口減少社会に適応した活力あるまちづくりを進めております。本総合戦略を推進するにあたりましては、地域課題に基づく適切な政策目標を設定し、それぞれの具体的な施策のＫＰＩにより検証を行い、その結果を次年度以降の施策に反映させていくこととしており、４つの基本目標を設定して、これに基づき各施策を推進することとしております。
　事前に実績の資料を送付させていただき、御確認いただいているところではございますが、事前にいただきました御質問や御意見については、後ほど順番に御発言をいただきたいと思います。
　それでは配付させていただいております資料に基づき説明させていただきます。
　資料１「第２期阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略令和４年度実績」を御覧ください。１ページからは令和４年度実績・評価シートになっておりますが、基本目標ごとの各ＫＰＩ項目に年度ごとの目標値を定めており、それに対する実績と進捗状況を記載しております。進捗状況につきましては、年度目標値に対し、達成している場合は「達成・継続」、80％以上で「概ね順調」、60％以上 80％未満で「やや遅れ」、60％未満で「遅れ」、実施していない場合は「未実施」としております。
　進捗状況が「達成・継続」及び「概ね順調」のものについては説明を省かせていただき、その他の項目を中心に説明させていただきます。
　まず、１ページ、基本目標１の主要な施策１の「新たな付加価値による農林漁業で稼ぐ」では、上から５つ目「有害鳥獣の食肉（ジビエ）としての有効活用頭数」は、「遅れ」となっておりますが、昨年３月にジビエ処理加工施設が完成し、５月から稼働しましたが、コロナの影響や近隣自治体での豚熱の発生によるイノシシの処理・出荷制限がその理由となっております。コロナの５類移行後は、飲食店、観光施設との連携・協働によりジビエの消費拡大を図っていただいておりますが、豚熱が発生した半径 10 キロ圏内の出荷制限が解除される仕組みがないため、イノシシの出荷は今後も厳しいと考え

られます。
　次に主要な施策３の「地域資源を生かして観光で稼ぐ」では、２ページの商工政策課、野球のまち推進課の事業が３つ「遅れ」、１つが「やや遅れ」になっております。「遅れ」となっている「スポーツイベント等参加者数」「スポーツツーリズム等宿泊者数」「スポーツツーリズムによる経済効果額」の３指標については、単年度でみますと、令和３年度と比較して２倍以上増加しており、回復基調が覗えますが、指標が５年分の累計であるため、コロナの影響で落ち込んだ令和２年度、３年度の落ち込みが影響した結果となっております。「観光関連イベント等来場者数」についても令和３年度より 3.6 倍に増加しており、目標値には達していないものの、回復基調となっています。
　次に２ページ、主要な施策４の「人材育成と雇用の確保」では、商工政策課の取組である新規船員就労者数が「０」となっております。尾道海技大学校阿南校の卒業生は 2021 年７月に 12 人、2022 年６月に７人であり、2023 年９月に 13 人が卒業予定となっています。この指標の根拠は、阿南市船員祝金給付事業の実績となっており、この給付金は「市内居住であり、市内海運事業者における６か月の雇用と２年以内の本人からの申請」が給付要件となっておりますが、卒業生は市外の団体に採用され、市内海運事業者に派遣されて勤務する形態となっているため、給付金の支給要件を満たす該当者がいない状態となっていることから、今後、祝金の支給要件の見直しを検討することとしております。次の農業体験受入人数については、例年、武蔵野大学から学生を受け入れておりましたが、コロナの影響により実施できていないことが影響しておりますが、今年度は再開されることになっております。
　次に、３ページの基本目標２「阿南市とつながり、住んで、好きになる」の主要な施策 1「移住・定住の促進」では、「伊島若者定住促進住宅の入居戸数」では住宅自体の戸数は５戸で目標値は４戸となっておりますが、実績は目標値の半分の２戸であり、小中学校の休校の影響もあり厳しい状況となっております。
　次に、主要な施策２の「シティプロモーションによる郷土愛の醸成とまちの魅力発信」では、「市外から訪れたくなる魅力あるまちだと思う市民の割合」と「地域資源を活用したまちづくりに活気を感じる市民の割合」については、５年後の数値を記載することとしております。基準値は、総合計画策定時に実施した市民意識調査の結果となっています。総合計画は、４年目に検証・見直しを図ることとしておりますので、来年度に市民意識調査を行い、その割合を把握する予定です。
　主要な施策３の「地域を支える人材育成、多様な主体との連携」では、「高校や高専、大学、経済団体等との連携・共同事業」は、目標６事業に対し、実績は２事業で「遅れ」となっていますが、例年取り組んでいました事業がコロナの影響で中止になったことにより実績が上がっていないものであります。中止になったのは、大阪大学、武蔵野大学、日本体育大学との連携事業であり、実施している事業は、阿南高専と大正大学との連携事業となります。
　次に、４ページの基本目標３「結婚、妊娠、出産の希望をかなえ、子育てを全力応援」の主要な施策２「子育て家庭を全力応援」の２項目目「学校施設での放課後児童クラブ開設数」については、公有地専用施設でも老朽化が進んでいる施設及び民間施設を借り上げているクラブについては、学校の余裕教室や学校敷地内への移転を検討していくこととしていますが、児童クラブの学校内移転については、学校再編とともに検討していく必要があることから、計画が遅れております。
　最後に、５ページの基本目標４「人口減少社会に適応した、持続可能なまちをつくる」

では、主要な施策１「デジタル技術等を活用した行政の推進」の、２項目目、市民生活課の「マイナンバーカードの人口に対する交付枚数率」が「やや遅れ」となっておりますが、カードを申請したものの未だ取りに来られていない方への案内状の文言にマイナポイントの申込期限が令和５年９月末までに延長された旨を盛り込み、受取を促すとともに、９月から、希望者への出張申請の募集を開始するなどし、交付率の向上を目指しています。

４項目目「講演会・セミナー等のオンライン化」では、講演会・セミナー等の開催数自体が前年度より大幅に少なくなっており、オンラインでの開催率が低下しています。企画政策課の事業である５項目目「利便性が高く、快適に生活できるまちと感じる市民の割合」と主要な施策４「ＳＤＧｓの推進」の「日常性生活や職場等でＳＤＧｓを実践している市民の割合」については、来年度の市民意識調査で把握する予定となっております。

また、主要な施策２「安全・安心な暮らしを守る」の２つ目「特定保健指導実施率」についてですが、現時点では、特定健康診査において、訪問し指導する必要がある方のうち、除外すべき方についても含まれている数値になっております。今後、国保連合会から提供されるデータと照合して対象者が確定するため、把握できるのは、報告がある10月頃となりますが、対象者が限定されることにより現時点の達成率が下がることはないものと見込んでおります。

主要な施策３「安全・安心なまちづくり」の２つ目、「管理不全空き家率」は、今年度に実施する住宅・土地統計調査により算出される予定となっております。

６ページ、最後は総括表となっております。

達成状況の総括ですが、全体の事業の達成率は50.0％で、前年度より1.1％上昇し、概ね順序を含めば72.9％で、前年度より7.1％下落しております。遅れている事業８事業の内、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものが４事業でございます。

各事業におきましては、年度目標を達成しているものについては引き続き継続できるよう進めていくとともに、進捗状況が遅れているものについては、現状を分析し、計画どおり進めていけるよう関係課と連携していきたいと考えております。

また、各指標のうち、年度指標値が「５か年分の累計」となっているものについて、コロナの影響により令和２年度から４年度分の数値の落ち込みが後年度に影響を与え続ける項目については、指標を単年度分に見直すよう今年度中に修正したいと考えておりますが、御意見がございましたらお願いいたします。

以上、令和４年度の実績及び評価となっております。御意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

【箕島座長】

ありがとうございました。それでは質問をお受けいたします。複数の質問がある場合は、全ての質問をまとめてお話いただいて、その後、担当部長から回答をお願いすることにしたいと思います。

まず、事前質問から入りたいと思います。青木委員、よろしくお願いします。

【青木委員】

引き続き青木でございます。よろしくお願いいたします。２つの質問と１つの意見でまとめさせていただきます。

まず１つ目の質問は、スポーツイベント等の参加者数、宿泊、経済効果についてです。事務局からの報告では、「遅れ」「やや遅れ」となっており、当然「遅れ」の要因は、コロナ等だと考えておりますが、本当にコロナの影響だけだったのかという原因の精査をされたのかと、この指標を出すときにどのような手法を使われたのかをお伺いしたい。それとともに、前向きな意味として、阿南は、野球、ＳＵＰ、ティーボールを始め、様々なスポーツが盛んでございます。観光資源等においては、今後の阿南の経済発展等を目指すには非常に持ってこいのコンテンツだと考えております。どのような戦略をしていくのかというのをプラスアルファでお答えいただければと思います。

２つ目の質問は、ＳＤＧｓの推進についてです。先ほど事務局の説明で、今後アンケートをとっていくという発言がありましたが、アンケート手法やＳＮＳ、特に阿南市のＬＩＮＥは、非常に使い勝手が良く、評判が良いと実感しております。ぜひとも、ＳＮＳを活用して広く意見が出しやすい、集約しやすい方法の検討をお願いしたいが、対象を全市民にするのか、どのような形で質問等を集約するのかという手法を教えていただければと思います。

質問はその２つで、意見が１つあります。高校や高専、大学、経済団体等の連携の共同事業についてです。共同事業は、地域を担う人材、将来を担う人材の育成のためには、避けては通れないものだと思います。阿南光高校、阿南高専、大正大学さん等々との連携の共同事業が、なぜもっと進まないのかというのが個人的な意見です。もしかすると、事務的な書類や申請の簡素化ができるのではないかといった観点も含めて、もう少し力を入れて進めていっていただきたいと考えています。以上でございます。

【箕島座長】

それでは最初の御質問ですが、スポーツイベント等の参加者数の原因について、産業部長からお願いします。

【吉岡産業部長】

産業部吉岡です。ＫＰＩ項目のスポーツツーリズム等に関するイベント参加者数、宿泊者数、経済効果額についての御質問にお答えいたします。

目標値に対し、実績が遅れた要因についてでございますが、やはり野球大会や野球合宿、また野球観光ツアーにおいては、コロナによる影響に尽きると考えております。

令和４年度においては、コロナ対策を施した上、ほとんどの事業が実施されたものの、大学硬式野球部の合宿と社会人の軟式野球大会が中止となりまして、影響人数は参加人数で 158 人、宿泊者数で 110 人、約 200 万円の経済損失額となっております。

参考に、令和２年度と令和３年度の実績について申し上げますと、令和２年度においては、各種大会や野球合宿、野球観光ツアーなど 19 の事業がコロナの緊急事態宣言等による移動制限等もあり中止となり、これによる影響人数が約 6,300 人、約 6,890 万円の経済損失額となっており、令和３年度につきましては、16 の事業が中止、影響人数が 3,200 人、約 2,080 万円の経済損失額となっております。目標値及び実績値につきましては、これらの累計となりますことから、目標値に遠く及ばない状況となっておりますが、今年度は、今のところ、計画どおりに事業を進めており、また、７月に開催しました少年野球全国大会の開会式当日には、モンゴルのティーボールチームと交流を行うなど、新たな事業も実施しておりますので、今後とも、観光も含めて、様々な事業に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。

【箕島座長】
よろしいでしょうか。

【青木委員】
ありがとうございます。頑張っていきましょう。

【箕島座長】
次にＳＤＧｓの推進について等でございますが、企画部長からお願いします。

【岡田企画部長】
企画部長の岡田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
ＳＤＧｓの推進について、アンケート手法もＬＩＮＥ等のＳＮＳを活用してはどうかという御質問でございますが、ＳＤＧｓの市民意識調査につきましては、先ほど説明でもございましたように、総合計画の見直し年である来年度に実施する予定でございます。
現在、本市では、パブリックコメント等、意見募集をする際には、郵送による方法だけはでなく、ＬＩＮＥやパソコンから電子申請システムを使って行う方法も実施しております。
市民意識調査の調査対象人数や調査方法等の詳細は、まだ決まっておりませんが、幅広い年代からの意見をお聞きできるよう、また、意見の集約に係る職員の負担軽減にも繋がるよう電子申請も含めた複数の方法で実施するよう検討してまいりたいと考えております。
それと、先ほど御意見をいただきました「高校や、高専、大学、経済団体等との連携・共同事業」に関することでございますが、阿南高専とは、平成 15 年１月に「阿南市と阿南工業高等専門学校の連携協力に関する協定書」を締結いたしまして、「地域産業の発展に係る共同研究の推進」、「地域住民の生涯学習の推進」等で協力することとしております。
現在、「阿南市生物多様性保全・活用事業等専門部会」「電子自治体構築についての研究専門部会」「小・中学校及び生涯学習への講師派遣等専門部会」の３つの専門部会を設置いたしまして、それぞれの専門部会で高専の専門知識をもって行政課題解決への御協力をいただいているところでございます。
また、少し観点は異なりますが、令和４年度は公共施設の持つ可能性を調査する阿南市トライアル・サウンディング事業を実施いたしまして、庁舎１階中央部のあなんフォーラムを生かした阿南高専と東京大学の学生による事前復興プラン発表会の開催や、本年度は、学生と事業者、行政が協力し、夕暮れマーケットを開催いたしまして、「まちに賑わいを」という思いを一つに共同して、３回目の開催を９月６日の水曜日に予定しております。今後につきましても、新たな課題解決に阿南高専の持つ知見をお借りし、連携強化に努めてまいりたいと考えております。以上、お答えといたします。

【箕島座長】
よろしいでしょうか。

【青木委員】
ありがとうございます。ぜひ、共同事業に関しましては、注目度も高いので、地元愛のある生徒さん、学生さん、将来を担う方々の人材育成を望みたいと思います。以上でございます。

【箕島座長】
私は、阿南高専の校長をしておりますので、一言付け加えますが、阿南高専は、阿南にあっての高専でございますので、今後一層連携を強めていきたいと思っております。
それでは次でございますが、兼松委員からお願いいたします。

【兼松委員】
資料１の１ページ目「地域産業の競争力を高めて稼ぐ」、ＫＰＩ項目「市内主要企業で働く従業員数」について、質問をさせていただけたらと思います。
市内主要企業で働く従業員数は概ね順調に推移しておりますが、市内主要企業を影で支えている中小企業は、新卒、また中途採用を含めて採用難で、アフターコロナの経済回復に支障をきたしております。
特に、新卒求人に関しては、大手企業は県外を含め広範囲で人材を採用できますが、小規模事業者・中小企業は、県内の高校・専門学校・大学を中心に一握りの県内就職希望者を奪い合う状態が続いております。
県内の高校・大学を卒業し、阿南市内の小規模事業者・中小企業に就職した新卒者に対し、就職時、１年又は３年経過時に何らかのインセンティブを付与できないものでしょうか。
私事で恐縮ですが、この仕事を始めてもう 40 年が過ぎますが、今年も本当に求人を出しても応募がないという状態が続いております。新卒に関しましては、私どもは中小企業ですから、大学に求人を出してもなかなか御紹介いただけません。また、大卒の方が就職していただいても、なかなか育てるまでに参りませんので、高校を中心に採用させていただいております。６月末にハローワークから返ってきました書類を７月初めに各高校の進路担当、就職担当の先生を訪問いたしまして、求人票をお配りするのですが、先生から、なかなか色よい返事がないなと今年は感じておりました。７月 24 日に私どもの会社の企業説明会を開催し、９月 21 日に入社試験ということで、各学校に配布をさせていただいておりました。７月 10 日前後だったと思うのですが、ある高校の就職担当の先生からお話があり、昨年お１人御紹介をいただいて採用させていただいた高校の先生ですが、「兼松さん、求人をいただいているんですけど、今年はいくら足を運んでいただいても就職希望者自体がおりません。」ということで、各高校とも就職希望者、特に県内の就職希望者が非常に少ないというお返事でした。最終的に、７月 24 日の会社説明会には、どの高校からも誰も来られませんでした。
また、2019 年、2020 年に私の知り合いの建設関係の方から聞いた話ですと、その会社は、徳島科学技術高校、阿南光高校、旧の阿南工業高校を中心に求人を出していたのですが、本来、大手のゼネコンで、徳島大学に求人を出していたのが、求職者が集まらないということで、徳島科学技術高校に求人を出し、今度、徳島科学技術高校に求人を出していた企業が、人が採れないものですから、阿南光高校に求人を出すというようなことで、非常に厳しいとお伺いしております。そのあたりを考えていただいて、できれば県内在住の方、県内の高校、専門学校、大学等で学ばれている方が阿南市内の企業に

就職をされましたら、何らかのインセンティブを市の方で考えていただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

【箕島座長】
　これについては、産業部長から御回答をお願いいたします。

【吉岡産業部長】
　産業部吉岡です。
　市内の中小企業に就職した新卒者に対するインセンティブの付与についてのお尋ねでございますが、本市では、事業所や学校、ハローワークなど様々な分野の方で構成する「阿南市就職促進協議会」を設立しており、これまでそれぞれの立場で情報共有を行い、就職の促進を推進してきたところでございます。
　また、本協議会の取組事業として、商工会議所及び商工会と連携し、新規学卒就職者の激励会の開催や長年にわたって働いてこられた従業員を表彰する優良従業員表彰式を開催してきたところでございます。
　委員から御提案の就職時や１年後、また３年経過後のインセンティブ付与につきましては、各事業所においても、従業員のモチベーションを上げる意味で、それぞれ御努力をされているものと考えておりますが、本日は貴重な意見として受けさせていただきまして、そういった点における優良取組事例等を研究してまいりたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

【兼松委員】
　ありがとうございます。

【箕島座長】
　よろしいでしょうか。
　それでは次に、鈴江委員お願いします。

【鈴江委員】
　鈴江です。３点ほど質問させていただきたいと思います。
　資料１最初の、早期米コシヒカリ「阿波美人」の生産戸数が、令和４年度で倍増している理由は何でしょうか。関連する事業として、農産物スーパー産地化推進事業という事業がずっと前にありましたが、ふるい網目を調整して大粒のお米に揃えるという事業だったと思いますが、この農産物スーパー産地化推進事業に賛同する農家が一挙に増加したのかなというのが疑問点です。それと、出荷量が増えたのであれば、「阿波美人」のブランド価値がさらに高まったのかお聞かせいただきたいと思います。
　次のページ「人材育成と雇用の確保」という部門で、商工会議所さんが創業支援セミナーを頑張って開催されていますが、これを受講して創業した人が令和４年で４人となっております。その４人の創業した事業内容を教えていただきたいです。というのも、基本目標である「徳島で、日本で、世界で稼ぐ産業の創出」を念頭に置いた場合、今後若い人が阿南で働きたい、こんな起業をしたいという環境を作るためには、どのような分野での創業が必要なのかということにも関連していますので、どのような分野での創業が必要と考えているのかも合わせて教えていただきたいと思います。

最後に、３ページの「シティプロモーションによる郷土愛の醸成とまちの魅力発信」のところで、ＹｏｕＴｕｂｅの公式チャンネルの登録者数の数字は目標を上回っておりますが、私も拝見したところ、アップの頻度や、視聴数は多いとは言えないと思います。業務多忙の中、特に動画編集というのはすごく時間もかかり負担も多いので、もっと民間事業者や若者の情報発信力を活用して、魅力的な動画配信を継続的に市民参加のもとで行えるシステムを検討してはどうでしょうか。

以上、３つよろしくお願いいたします。

【箕島座長】

どうもありがとうございました。

それでは、まず最初の２件ですが、「阿波美人」と創業支援セミナー受講者で創業された方について、産業部長から御回答をお願いします。

【吉岡産業部長】

産業部吉岡です。早期米コシヒカリ「阿波美人」の生産戸数についての御質問にお答えいたします。

初めに、令和４年度で、戸数が倍増している理由についての御質問ですが、これにつきましては、少し訂正、説明をさせていただきたいのですが、令和３年度までの実績値は先ほど委員がおっしゃいました、「農産物スーパー産地化推進事業」の取組生産者数をもとに算出した数値を記載しておりますが、現在、この「農産物スーパー産地化推進事業」は実施していないため、市全体で現在どれぐらいの戸数が「阿波美人」の生産に取り組んでいるのかを農協さんに確認したところ、「ふるい網目等導入助成事業」に賛同する農家が一挙に増加したわけではなく、この事業を始める前から「阿波美人」の生産に取り組んでいた方もたくさんおいでたとのことでございまして、市全体として1,371戸が生産しているということでございました。

こうしたことから、令和３年度までの実績値は、「農産物スーパー産地化推進事業」実績報告に基づく数値を、令和４年度からは、市内で「阿波美人」の生産に取り組んでいる戸数を実績値として記載させていただくこととし、令和５年度からの目標値については、後日、改めさせていただきたいと考えておりますので、御理解を賜りたいと存じます。

また、「阿波美人」のブランド価値は高まったかとの御質問でございますが、阿南市のお米は早期米で海外への輸出等には有利な点があると言われておりますが、実際には、令和３年度までは米の買取価格も徐々に下がっている状況でございます。

こうしたことから「阿波美人」のブランド力を高めていくため、昨年度、国等の補助金を活用し、阿南と新野の２ヶ所のライスセンターに色彩選別機を導入いたしました。均一で高品質な米を確保することで、販路の拡大等にも期待するところでございます。

昨年、今年と米の買い取り価格は、やや回復傾向にございますが、今後とも関係機関と連携を図りながら、生産力・ブランド力の向上に努めてまいりたいと考えております。

続きまして、創業支援セミナー受講者で創業者に関する御質問にお答えいたします。

昨年、創業した４人の事業内容についてのお尋ねでございますが、小売業が２件、測量業１件、情報通信業が１件の計４件となっております。

また、若い人が阿南で働きたいと思う環境を作るためには、どのような分野での創業が必要だと考えているかとの御質問ですが、本市では、「創業塾」として、支援セミナ

ーを阿南市商工業振興センターで開催しており、独立を目指すサラリーマンやＯＬ、開業を考えている主婦・学生などチャレンジ精神を持つ方なら誰でも参加できることから、様々な知見のもと、新産業の創出にも期待し、産業振興や雇用の確保、若者の定住促進等にも資するものと考えております。

また、本市では、昨年度から、ふるさと納税の寄附金を活用して、「チャレンジ都市阿南創造事業補助金」の制度を実施しております。

この補助制度の対象事業は、「ＳＤＧｓの実現およびＥＳＧ経営に関する事業」、「地域社会及び地域経済の活性化につながる事業」など、新たな商品・サービスの開発や先導的なビジネス展開による新規創業又は事業再構築を計画されている起業家や事業者を対象に選考のうえ経費の一部を補助しております。

こうしたことから、どの分野での創業が必要かという点については、社会情勢により多様化しておりますので、一概に申し上げることはできませんが、今後におきましても様々な分野でやる気のある方に対し、チャレンジできる施策を展開していくことで、若い世代を含めた方の挑戦意欲にも繋がるものと考えております。以上とさせていただきます。

【箕島座長】

いかがでしょうか。

【鈴江委員】

「阿波美人」の生産戸数が急に増えた理由は分かりました。いい名前がついてるので、ＪＡさんと協力して、どんどんブランド価値を高めていっていただきたい。創業につきましても４人の内訳が分かりました。徳島新聞の「ｓｔａｒｔｔ（スタート）」という雑誌に、あちこちで若い人が創業している記事を見かけます。阿南の人も時々紹介されていますが、若者に定住してもらうためには、地域創業や新たな働き方がすごく大事だと思いますので、会議所等と連携をしながら、創業が活発になるように少しでも頑張っていただきたいと思います。

【箕島座長】

それでは次ですが、ＹｏｕＴｕｂｅ阿南市公式チャンネルについて、企画部長からお願いします。

【岡田企画部長】

企画部の岡田でございます。よろしくお願いします。ＹｏｕＴｕｂｅ阿南市公式チャンネル登録者数について、民間事業者や若者の情報発信力を活用して魅力的な動画配信を継続的に行うシステムを検討してはとの御質問でございますが、阿南市公式チャンネルは市政情報を主に発信する媒体でございまして、発信する情報に制約がございます。また、御承知のとおり、動画を配信する上で、動画の出演者や特定の情報に対する同意等が必要な場合もございますため、情報発信をする場合には、責任も問われることとなります。その一方で、魅力的な動画配信を継続的に行うことは、登録者数や視聴者数の増加に繋がることになり、市民に必要な行政情報を届けるためには必要不可欠であるため、鈴江委員御提案の民間事業者等の活用につきましては、今後の検討課題とさせてい

ただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

【箕島座長】
よろしいでしょうか。

【鈴江委員】
はい。公式というのが足枷になっていて、色々と気を使わなければいけないというのもよく分かります。ただ、ＳＮＳ等で色んな人が情報発信を手軽にできるようになっているので、例えばアンバサダー制度を採用する等、公式チャンネルに準じたような形で、市民の方も参加して阿南を盛り上げるような方策についても御検討いただけたらなと思います。以上です。

【箕島座長】
どうもありがとうございました。
それでは次に、藤井委員からの御質問をお願いします。

【藤井委員】
はい、藤井です。私からは、３つお聞きします。
兼松委員さんの御質問よりもっと基本的なことなのですが、市内主要企業で働く従業員数についてです。私も勉強不足で申し訳ないのですが、この主要企業とは、どの程度の規模の企業を指しているのでしょうか。
次に、総合計画の 15 ページに載っていた人口の推移と将来の見通しについてです。令和２年１月の人口が 69,157 人で、そこから現在は３年７ヶ月ほど経っていますが、実際の人口と想定している人口にどれくらい開きがあるのでしょうか。
最後に、阿南市の生産年齢人口についてです。徳島県の統計情報を見ると、令和２年７月１日時点で阿南市の生産年齢人口は 37,551 人、令和５年７月１日時点では生産年齢人口 35,544 人とありました。３年でおよそ 2,000 人減となっています。総合計画の 49 ページに令和６年における目標人口が 36,018 人となっており、誤差もあるのでしょうが、今申し上げた数字より若干下回りつつあります。団塊ジュニア世代が老年人口にさしかかる 2040 年には、労働の担い手がもっともっと不足して、それが顕著になると言われています。今の段階で未来に向けた地域産業を守るための施策はあるのでしょうか。以上です。

【箕島座長】
ありがとうございました。
まず最初の御質問ですが、1 ページ目の「市内主要企業で働く従業員数」のうちの「市内主要企業」の定義について、産業部長から御回答をお願いします。

【吉岡産業部長】
産業部吉岡です。藤井委員の市内主要企業で働く従業員数についての御質問にお答えいたします。
市内主要企業とは、どの程度の規模の企業を指すかとの御質問でございますが、特に基準を設けているわけではございません。主に大手企業、またそれに関連する企業とい

うことで、本市が市内主要企業で働く従業員数調査を行っている企業は、大潟新浜工業団地内の６社、辰巳工業団地内の７社、その他市内の９社の合計 22 社に御協力をいただいております。以上でございます。

【藤井委員】
ありがとうございます。

【箕島座長】
次に、総人口の推移と将来見通しについて、企画部長からお願いします。

【岡田企画部長】
企画部岡田です。藤井委員の総人口の推移と将来見通しについて、実際の人口と想定している人口にどれぐらいの開きがあるのかという御質問にお答えします。
阿南市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時の人口ビジョンでは、2020 年の推計人口を 69,157 人と推計しておりましたが、2020 年 10 月 1 日実施の国勢調査での阿南市の人口は 69,470 人であり、ほぼ推計人口のとおりでありました。
その後、３年近くが経過した現在、2023 年７月末の徳島県が公表している推計人口は 66,822 人であり、2020 年の国勢調査時より 2,648 人減少しております。
これは、人口ビジョンで予測しております趨勢人口より約 250 人下回っており、また、総合戦略に掲げる取組を実施することにより、人口減少を抑えることを目指した戦略人口より約 700 人下回っている現状がございます。
戦略人口の達成に向けましては、毎年度まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標及び各施策のＫＰＩの達成状況等を検証いたしまして、次年度以降の施策に反映することで実施したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

【藤井委員】
ありがとうございます。

【箕島座長】
よろしいでしょうか。それでは３番目の御質問ですが、生産年齢人口について、産業部長からお願いします。

【吉岡産業部長】
産業部吉岡です。
労働の担い手不足が顕著になると言われている中、今の段階で未来に向けた産業を守るための施策はあるか、とのお尋ねでございますが、まず、中小企業等に対する施策といたしまして、本市では中小企業の振興を市政の重要な課題と位置づけ、平成 29 年９月に「阿南市中小企業振興基本条例」を策定しております。
本条例では、市の責務及び中小企業事業者の努力、商工団体の役割、大企業及び金融機関、阿南高専の協力の他、市民の理解及び協力といった項目を条文に定め、相互理解を深めるとともに、地域経済の循環を高め、その持続的な発展と市民生活の向上を図ることを目的としております。
また、今年度からは阿南商工会議所において「中小企業振興特別委員会」が設置され、

２ヶ月に１回勉強会を開催し、市の担当職員も参加するなど互いのコミュニケーションを深めているところでございます。
　このほか、具体的な施策といたしましては、阿南高専内に設置しているインキュベーションセンターを活用したベンチャー企業の支援や起業家の育成、また、阿南市工場設置奨励条例による固定資産税の減免措置や「阿南市ＵＩＪターン促進事業補助金」による移住促進、先ほども申し上げました創業支援セミナーや中小企業事業者の経営相談会の開催、また、近年では、コロナの影響などにより冷え込んだ市内の景気回復を目的とした「プレミアム付き商品券」を発行するなど、各種施策を実施しているところでございます。
　一方、農業分野では、持続可能な農業を目指すため、担い手の確保や育成、農業経営者への支援が必要であり、現在、認定農業者制度及び認定新規就農者制度の認定を受けた農業者に対し、国の各種支援制度を活用するとともに、農業支援センターなど関係機関と連携し、研修会の開催や技術指導、相談対応等を行うことで、就農後の定着や経営の安定化を図っているところでございます。
　また、コロナの影響や燃油高騰の中、経営継続を支援する観点から漁業者等への支援も行ってまいりました。
　加えて、これは県単位での施策となりますが、徳島林業アカデミーや徳島漁業アカデミーを開催し、林業及び漁業の将来の担い手育成にも取り組んでおります。
　藤井委員から御指摘をいただきましたように、現時点では、生産年齢人口の目標値を少し下回っている状況でございますが、今後とも各種施策に取り組んでいくことで、人口減少が進む中においても、大切な地域産業を守っていきたいと考えております。以上でございます。

【箕島座長】
　よろしいでしょうか。

【藤井委員】
　ありがとうございます。

【箕島座長】
　以上が事前に質問を受け付けたものでございますが、委員の皆様から何か御質問はございますでしょうか。

【坂本委員】
　先ほども地元の中小企業になかなか求人がないと話をお聞きしまして、私の経験の中で良い事例を思い浮かべました。
　中小企業もその事業内容にイノベーションを起こしていかなければいけない。イノベーション人材を中小企業の中に作っていかなければいけない。そうやって企業も魅力を上げていく必要があると思います。その際に、専門的な知見を持った科学技術者の存在がとても重要で、阿南市は高専や大正大学といった連携体制があるということは、専門人材が市内に存在しているということで、専門人材と中小企業をマッチングさせる場があればいいのではないかと思います。他の地方創生系の大学や高専でもそういった取組を既にされていて、そういったイノベーションマッチングの場づくりがあり、そこに若

い高校生や起業したい、創業したい人たちが参画していく、そういった分野横断的な連携の場があればいいのではないかなと思いました。以上です。

【箕島座長】
どうもありがとうございました。これについて、市から何かございますか。

【吉岡産業部長】
今、貴重な御意見をいただきましたので、また今後とも、坂本先生には色々教えていただきたいと考えております。よろしくお願いします。

【箕島座長】
他に何か御質問、御意見等ございますでしょうか。

【池添委員】
４ページの「阿南市というまちが好きだと感じる児童生徒の割合」についてですが、経年的に上がっていっているのか、目標値がこの数字ですので、順調という評価だとは思いますが、どうしてこのような数値が出ているのか、何か分析等されておりましたら教えていただけますか。

【箕島座長】
これについては、どなたが回答されますか。教育部長お願いします。

【市瀬教育部長】
はい、教育部でございます。備考の欄にもございますが、各学校が毎年実施をしております「学校評価アンケート」というのがございます。これは児童生徒にも出しておりますし、保護者や学校の先生にも出しているものでございます。そのような学校評価アンケートの中で、この児童生徒の割合というのを出しておりますので、毎年大体上がってきてはおりますが、ほぼ９割近くの子どもたちが阿南市が好きだと答えているという状況になっております。

【池添委員】
ありがとうございます。違う自治体で、「自分の市町村のことが好きですか」ということを学校評価アンケートの中で聞いているところを気になって探してみましたが、見つからなかったので、おそらくオリジナルで考えられている項目だと思います。
一番最初の市長のお話の中に、人口減少を抑えながらというお話がありましたし、人口推計の話も出ておりますが、そもそも教育は、高度経済成長期に 40 人学級という日本の決まりができましたが、欧米等でいいますと、もっと少ない人数の規定で教育をされている国もあります。人口が減ったことによって、より質が上がっているものもおそらくあると思います。阿南市でも、人口が少ない小・中学校と今も多くの児童がいるところがあったりとか、そういったところで差があるとか、そういう分析がされているのであれば、もしかすると人口が少なくなっている地域の教育の質が、地域と連携して小規模な小学校だからこそできている良い教育があるとか、何か新しい阿南市の魅力に繋

がるようなこともあるのかなと感じました。先ほどの産業や就職に繋がっていないというところで、この阿南市というまちが好きだと感じる子どもたちが８割９割近くいるのに、その後も一旦出たとしても戻ってきていない現状がもしもあるのであれば、継続的にどういう体制を考えていけばいいのかというところにも繋がっていくのかなと感じましたので、この阿南市というまちが好きだと感じる児童生徒がどういう状況であるのかというのも少し分析をされてもいいかなと感じました。以上です。

【箕島座長】
　どうもありがとうございました。参考にしていただければと思います。
　他に何か御質問等ございますか。そうしましたら、ほぼ予定の時刻が参りました。
　それでは懇談会をこれで終了したいと思います。委員の皆様には、忌憚のない御意見をいただき、また、スムーズな進行に御協力いただきまして誠にありがとうございました。

【東企画政策課長】
　委員の皆様方には長時間にわたり熱心に御審議をいただきありがとうございました。本日は誠にありがとうございました。

（11:58　終了）